

# れいめい

社会福祉法人三山黎明会 〒371-0056 前橋市青柳町 983-1

まほろ TEL027-233-2561 / FAX027-233-2560

らいず TEL027-260-1900 / FAX027-233-2588

サニーマーケット TEL027-212-8301 / FAX027-212-8302

アベリア TEL027-219-1133 / FAX027-233-2588

ホームソレイユ/ホームあおぞら TEL027-260-1900(らいず内)

～「こんにちは」と「こんにちわ」～

らいず施設長 中島 穰

「こんにちは」と「こんにちわ」。相手に対し挨拶として用いるとき、あまり意識しないかもしれないが、最近のSNSやメール文の中では特に若い人を中心に「こんにち『わ』」が多くなってきていると言われている。私としては「こんにちは」と書くのが当たりまえと思っていたが、実際のところ「は」と「わ」はどちらが正しいのか、そしてこの当たりまえに日常使っている挨拶にはどのような意味があるかについて考えてみたい。

・・・ネット検索によると・・・

「こんにちは」は漢字で書くと「今日は」となる。「今日（こんにち）」は「今日（きょう）」のことであり、この場合の「は」は助詞としての「は」となり、本来後ろには文章があって、「今日は（良い天気ですね）」「今日は（ご機嫌いかがですか）」のように使われていた。《日本は和（輪）を重んじるとして（わ）を使った時期もあったようだが、「私は」「貴方は」と同じで（は）で（WA）と読むが正解。》だが、いつの頃からか文章の後ろの部分が省略され、主に昼間の挨拶として「こんにちは」と使われるようになったとのことである。《同様なものとして、「こんばんは（今晚はご機嫌いかがですか）」や「さようなら（左様ならばお別れしましょう）」、「おはようございます（お早くからご苦労様でございます）」などがある。》

このように「今日は〇〇ですね」と挨拶すべきなのに、今では「こんにちは」と言えば良いわけで非常に便利というか短く簡単に使うことができるようになったということだ。更には「こんにちは」にとどめておくことで、後半がどのような文章でも続けられるので、非常に汎用性の高い表現として日常的に用いることができる言葉ともいえる。などとあった。

・・・挨拶から始まるコミュニケーション・・・

そこで感じたことだが、本来の挨拶には後半部分に続き言葉があるということなので、特に私たちのような障害福祉に従事する者はこのことを大切にしたいと思う。例えば、送迎バスで利用者を迎えに行く際は、「おはようございます（お待たせしました）今日もよろしくお願ひします。」または、帰りの見送りをする際には、「さようなら。また、明日も元気に来てくださいね。」など、少し後ろに言葉を加えるだけでコミュニケーションを深めることができる。若しくは、続き言葉はなくても挨拶とともに手を振ったり、笑顔で会釈をするだけで、同様の効果が期待できる。もちろん挨拶は、場面や関係性もあるので、一概には言えない部分もあるのだが、「おはよう」や「こんにちは」「さようなら」は、その後続くコミュニケーションの始まりであると捉えることもできるので、チャンスは見逃さずより良好な関係性を築けるよう当法人職員は続く言葉にチャレンジして欲しい。

また、「礼に始まり礼に終わる」という言葉があるように日常的なコミュニケーションであっても礼儀をもって行うことも忘れてはいけない。

## ～サニーズマーケット放課後等デイサービス活動報告～

サニーズマーケット放課後等デイサービス 保育士 新井智子

現在、毎日利用して下さっているのは小学生です。小学校ではどうしても「がんばること」や「させられること」が多いので、ほっとできる空間を提供することを心がけています。ひとりひとりの子どもに合わせた関わりを通して、学校にストレスを感じ問題行動を起こしてしまったりすることがあっても、サニーズに来て気持ちを切り換えられ笑顔が戻ると、本当にうれしい気持ちになります。

子ども自身が好きな事や、関心のあることをもっと日々の生活の中に取り入れられるように、毎週図書館で興味のある本などを借り、用意しておいたり、印刷して掲示し、いつでも見られるようにしてみた所、子ども同士と一緒に眺めて遊ぶきっかけになりました。負けたくない気持ちが強すぎてケンカになってしまうこともあります。最後は譲ることや優しさを学べるよう必要な介入をして仲直りすることができます。コミュニケーション面の困難さはADHDやASDの特性からくるものと推測されるものもあり、子どもが気付かないうちに対人的なトラブルや様々な失敗体験が生じ、それゆえに自分の価値（自尊感情）を育むことができずにいるということも考えられます。自尊心を育み、ストレスに負けない豊かな生活を営むことをめざして「こどもらしい」育ちをこれからも支援していきたいと思えます。



## ～相談支援事業所アベリアより～

アベリア相談支援員 舘野真生

日中活動やヘルパーと外出、短期入所の受け入れ、行事やイベントもコロナ前のような動きになってきたところが増えてきました。日常の動きが戻り嬉しさもありますが、コロナ禍の相談業務の中で課題もみえてきました。

利用者や家族がコロナ感染時に、家族がすべてを引き受けざるを得ないケースが多い事でした。1人暮らしで居宅支援の必要性が高い方に対して本人がコロナ感染時でもヘルパー事業所が感染対策を講じて支援に入ることもありましたが一時的な



対応でした。コロナ感染時に自宅以外で療養や過ごせる場所の確保、介護等の負担軽減のためレスパイトを目的とした利用ができないこともあり利用者、家族支援が上手く出来ないことがありました。また事業所への訪問自粛、相談員自身の健康維持、福祉サービスの利用制限があり代替えのサービス調整が困難なこと、交流の機会の減少など相談支援事業所の情報交換の際に各事業所対応に悩むケースが挙げられていました。

今後の相談業務ではコロナ禍の相談を生かし、平時における日常生活の流れ、緊急時の動き、家族のライフスタイルの変化などの視点から利用者、家族、地域の資源、行政、サークル活動、地域の活動、医療など横、縦、斜めのつながりを改めて確認していくことの大切さを感じました。その時の問題や課題、相談事を伺い、5年後10年後に向けての考えや思いなども一緒に共有していきたいと思えますので引き続きよろしくお願ひ致します。

## ～少しずつ再開したらいずの外出イベント～

らいず支援員 上野理津子

私は去年の8月に入職しました。入った頃はまだまだコロナ禍真ただ中で外での活動は自粛中でしたが、この春から徐々に再開し、ドライブ、買い物体験、カラオケ等を行ってきています。また、秋には少人数のグループに分かれ、道の駅吾妻峡や渋川スカイランドパーク等へ小旅行に行ってきました。

私が法人のグループホーム夜勤に入った日、一人の利用者さんがその小旅行を次の日に予定していました。前日の晩はいつもと変わらない様子で過ごしていると思ったのですが、必ず声かけで起きる方なのに、朝いつもと同じ時間に部屋に行くと、着替えまで済ませて準備万端になっていて、とても楽しみにしていたんだ！と判明しました。きっと旅行を知らされた日から、ワクワクしながら普段のコツコツとしたお仕事をがんばっていたのではと想像します。

旅行となると一大イベントですが、アイスクリームを仲間と買って食べたり、ドライブでちょっと遠くに行って気持ちがいい道を歩いたり、派手さの無い非日常も大事だと思います。コロナの状況を見ながらですし、知らない場所や、人がたくさんいるところが苦手な人にも配慮しながらですが、ちょっとした息抜きとして、このようなイベントを今後も続けていきたいです。



## ～4年ぶりのまほろの旅行 共に考え・共に行動し～

まほろ支援員 福本映之

2020年に新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、まほろでの様々な活動が制限されてきました。毎年秋に開催されていた親子旅行もそのひとつです。私が入職してから3年間はコロナ感染防止のために中止になっていました。しかし今年5月8日から新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行したことに伴い、感染症対策を考慮し規模を縮小した旅行を企画しました。例年では親子参加の泊旅行でしたが今回は参加希望の利用者さんのみで日帰りの旅行に出掛けました。行き先は伊香保グリーン牧場です。10月11日に、先ずは下請け事業部のメンバーで行ってきました。屋外がメインとなるので天気が心配されましたが、この日は幸い快晴で気温も薄手の上着一枚でちょうど良いような気持ちの良い陽気でした。職員1人に利用者さん3～4人ほどの小グループで行動し、それぞれ自由に牧場内を散策しました。グリーン牧場のメインイベントはシープドッグショーで、牧羊犬のダン君がスタッフの笛の音色を聞き分けて敷地内の羊を一カ所に集めます。この笛の音色は8種類ほどあるらしく、右へ、左へ、吠えろなど細かい指示が出せるとのことです。初めはバラバラだった羊がみるみるうちに集まってきました。観覧席のすぐ近くにも羊やヤギがいたり、身近に動物や自然を感じる体験をしながら気持ちの良い探索ができました。食事は団体用に用意していただいたハンバーグ弁当でした。各グループ毎での食事を予定していましたが、時間になると参加者全員が一堂に会し食べることが出来ました。驚いたことに、普段は行動が遅くなってしまいう利用者の方も、班のなかで時間に遅れずに行動できていました！楽しいことには参加も行動も前向きでした。

普段の支援でも同じことが言えると思います。最近ではコロナの影響もあり、作業が中心の活動や日課になっていましたが、それだけではモチベーションが保てないはず。楽しさや、やりがいを感じられる行事や日課が必要だと改めて感じられ、職員にとっても新たな発見が出来る旅行になりました。



令和5年4月よりホームの支援体制が変わり、これまで男女7名が生活していた「あおぞら」は定員7名の女性専用となり、女性3名が生活していた「ソレイユ」は定員4名の男性専用となりました。どちらも夜間支援のあるグループホームとなっています。

利用者の方は、まほろやらいずで日中活動に参加して、夕方から翌朝まで仲間と協力しながら共同生活を送っています。ホームでの過ごし方は人それぞれですが、音楽を聴いたり工作やぬり絵を楽しんだり、毎日のおやつを楽しみにしている方や支援者との関わりを楽しみにしている方など、一人一人が生き生きと生活しています。

そんな利用者を支える支援者は、日中活動で普段接している職員が勤務していますので、本人の様子の小さな変化に気づき易く、直ぐに対応できるので利用者の方も安心して生活できているようです。今後も意思決定支援や生活の質の向上を意識しつつ利用者の方が快適に生活できるように支援していきたいと思ひます。



本部事業報告（令和4年度事業報告）

日付	項目	内容
R4 5/20	監事による監査 (理事長・幹事・事務局員)	1. 令和3年度会計執行状況及び法人・施設運営状況 2. 令和3年度有機認証に係る業務運営状況報告
R4 5/25	第1回理事会 (理事長・理事・監事)	1. 令和3年度事業報告について 2. 令和3年度決算報告・監査報告について 3. 就業規則見直しについて 4. 次回評議会招集項目等について 5. 職務の状況報告（報告）
R4 6/10	第1回評議員会 (書類開催)	1. 令和3年度事業報告について 2. 令和3年度決算報告・財産目録承認について
R5 3/22	第2回理事会 (理事長・理事・監事)	1. 令和4年度第1次補正予算について 2. 令和5年度事業計画について 3. 令和5年度当初予算について 4. 各種規定見直しについて 5. 処遇改善事業の実施について 6. 令和5年度役員等賠償責任保険の契約について 7. 職務の状況報告（報告）

◇社会福祉法人三山黎明会ホームページのご案内（法人情報を公開しています）

法人の詳しい事業内容等がご覧になれます →→→ <http://www.mireimei.or.jp/>